

# 「禁煙」という言葉に違和感を感じませんか？ 「喫煙」が異常なのです。

ほざわそういちろう  
保澤総一郎 広島アレルギー呼吸器クリニック

## パリの路上で見た タバコの吸い殻の投げ捨て

小生は、内科医、特に、気管支喘息やCOPD（慢性閉塞肺疾患）を専門とするアレルギー呼吸器内科医です。ゆえに、喫煙は能動的・受動的に喫煙者本人だけではなく周囲の人へも多大な影響を与えるということ、そして、種々の疾患を惹起・悪化させることを目の当たりにしてきました。

このコーナーでは、これまでわが国有数の論客が執筆されており、なぜ「タバコ」が無くならないのかを

含め、「タバコ」にまつわる背景・

問題点など、社会的にも医学的にも十分すぎるほど述べられていると思います。ですので、今更ここで小生が大上段に振りかぶって東京五輪禁煙を論じても到底これまでの執筆陣には及ばないことは明白ということ、小生なりの、「タバコ」についての、あるいは、「喫煙」についての、素朴な疑問や個人的にはどうかということを考えてみたいと思います。

仕事から海外の学会でも発表の機会があります。直近では、この9月14日から22日までパリで開かれたヨーロッパ呼吸器学会（ERS）に参

た。

## 全面喫煙禁止にふみきった 串カツチェーン店

わが国ではどうかと考えると、飲食店の「喫煙禁止」には道遠しの様相です。屋外でもコンビニ前の「喫煙」コーナーでモクモクと煙が立ち込めている状況。そして、そのそばを小学生たちが通学しているという現実を見ると、やりきれない気持ちになります。

串カツ田中が、最近、全面喫煙禁止にふみきったという話題がありました。ですが、こういったタイプの飲食店でも喫煙禁止の取り組みをしているという、一筋の光明とします。また、「喫煙」者は不採用の動きが企業に出てきているという報道が最近ありました。

社会的正義であっても実社会のなかで実現していくことはなかなか難しいと思いますが、社会全体でそれを推し進めるといった環境が広まれば、何とかなるのではないかと期待したいところです。「喫煙」者もタ



パリの朝、ブティック街で見た掃除後の歩道

加してきました。ご存じのとおり、パリは2024年の五輪開催地に決まっています。

1週間程度の滞在ですので、詳細は分かりませんが、室内・屋内で「喫煙」は体に良くないことは百も承知なものですから。

本エッセイでは、「喫煙禁止」というまどろっこしい表現をしています。タイトルにもしましたが、「禁煙」という言葉がどうも小生にはしっくりきません。「禁煙」ということは「喫煙」が前提の言葉ではないでしょうか。「全席禁煙」「禁煙車両」などと「禁煙」を表示していますが、そもそも「喫煙」することが異常な行動であって、タバコを吸わないことが当たり前のこと、すなわち正常なのです。ですから、わざわざ「禁煙」と表示すること自体が、これまでの合法的麻薬であるタバコの歴史を物語っていると思います。「喫煙」は、特殊な状況であるということとを再確認する必要があると思います。

最後に、東京五輪が、世界に恥じないタバコのない五輪となることを期待しています。現時点では行政に期待はできないと思います。我々一人一人の地道な努力の積み重ねが社会を動かすことを信じています。

煙」できる場所には遭遇しませんでした。飲食店も、外に出ているエリアには「灰皿」がありました。室内エリアには灰皿は置いてありませんでした。しかし、完全に分煙されているわけではなくいい加減なものです。そして、びっくりしたのは、路上への吸い殻の投げ捨ての多さです。

写真は、コンコルド広場につながるブティック街の前の歩道の石畳の状況です。これでも店舗前の歩道の掃除が、朝なされたあとの状況です。

小生、花の都パリは超ひさびさだったのですが、この光景はやはり残念でした。実は、昨年9月にはミラノで開催されたERSに参加しています。ミラノは洗練されたファッションの街というイメージですが、やはり、路上の吸い殻は目を覆う状況でした。吸い殻のポイ捨ては論外ですが、欧米では屋外の「喫煙」には寛容なのだなぁとあらためて実感しました。しかし、路上で人々は行き交っているのです。やはり、何かおかしい、そういう思いを強くしまし